# 大阪総合保育大学大学院の三つの方針

平成 28 年３月 31 日付文部科学省高等教育局長より通知のあった「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の交付について」を受け、大阪総合保育大学大学院児童保育研究科（以下、「本大学院」という。）は三つの方針を策定しました。
今回の改正は、本大学院が自らの教育理念に基づき、育成すべき人材像を明確化したうえで、それを実現するための適切な教育課程を編成し、体系的、組織的な教育活動を行うとともに、本大学院の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施することにより、その使命をよりよく果たすことができるよう、本大学院の教育上の目的を踏まえて、「修了の認定および学位の認定に関する方針」「教育課程の編成および実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」（以下、「三つの方針」という。）を策定し、公表するものであります。

## １．修了の認定および学位の授与に関する方針［ディプロマ・ポリシー］

本大学院は、大阪総合保育大学の三つの建学の精神「自主自律」「清和気品」「敬天愛人」を継承するとともに、保育・教育と子どもの心身の健康に関する実践的、臨床的、理論的研究を、理論と実践・臨床との融合を強く意識して遂行し、多様化、複雑化した保育・教育と子どもの健康上の様々な課題の解決に資する高度な専門性と実践的または臨床的視野を兼ね備えたリーダーおよび研究者を養成するため、以下のような人材養成をめざします。そして、本大学院は、これらの人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修め、基準となる単位数を修得したうえ、学位論文の審査に合格した学生に、博士前期課程においては修士(教育学)、博士後期課程においては、博士(教育学)を授与します。
①建学の精神を理解し、自律した個人として自主的、主体的に行動するとともに、繊細で豊かな感受性と他人のために真心を尽す気品を備え、誰に対しても分け隔てなく、温かい愛情を注ぐことができる豊かな人間性を身につけている。
②保育・教育に関する実践的、理論的研究に取り組み、優れた実践的指導力とリーダーシップを発揮できるとともに、理論と実践を融合する研究能力と研究者に必要な倫理感を兼ね備えている。
③心理・医療の視点から子どもの心身の健康に関する臨床的、理論的研究に取り組むことによって、病棟保育や病児保育、子育て支援等に的確に対応できるとともに、創造的な課題解決力を備えている。
④保育・教育および心理・医療等の領域において、他の専門家や研究者、専門機関と緊密に連携しながら、生涯にわたり自律的かつ協働的に研究を続けることができる。

## ２.教育課程の編成および実施に関する方針［カリキュラム・ポリシー］

本大学院は、養成すべき人材像と修了認定(学位授与)の方針に基づき、以下のような特色のある教育課程を編成し、きめ細かな履修・学修指導を行い、厳正な成績評価を行っている。

①博士前期課程では、「保育・教育実践研究領域」と「子どもの健康研究領域」の二つに分け、それぞれの領域に応じた多様で、調和の取れた教育課程を編成している。すなわち、「共通科目」と「選択科目」に分け、共通科目は、専門研究に取り組むために必要な基本的内容を「専門基礎科目」として配置し、「教育学特論」「保育学特論」「幼児教育学特論」「発達心理学特論」「小児医学特論Ⅰ」「子ども心身医療特論Ⅰ」のうち、６単位(３科目)以上を選択必修としている。選択科目は「専門応用科目」として、保育・教育実践研究領域では、保育・教育領域に関する実践的研究を主とする科目を配置している。講義としては「教育方法特論」「教育課程特論」「教育内容研究」「保育内容研究」などを設けるとともに、子どもの育ちや保育・教育の実践が学べるように、「教育実践研究Ⅰ・II」「保育実践研究Ⅰ・II」を演習として配置している。 子どもの健康研究領域では、子どもの健康領域に関する研究を主とする医療系科目および心理学を配置している。講義として、子どもの心や身体の領域の関する科目には、「小児医学特論 II」「子ども心身医療特論 II」を配置し、心理学の領域科目には、「教育心理学特論」「幼児心理学特論」などを配置している。また、子育て支援に必要な実践が学べるように、「臨床心理学研究Ⅰ・II」を演習として配置し、保育所・幼稚園・小学校および地域における子育ての支援が総合的に学べるようにしている。なお、両研究領域において、研究計画立案および修士論文作成に関する適切な指導を行うために、研究指導を配置している。ただし、研究指導は単位化しない。学生は研究課題に応じて、自分の所属する研究領域より研究指導者を選び、グループおよび個人面接により研究の進行に関する助言を受け、修士論文の作成を行う。

②博士前期課程の修了要件は、本大学院に２年以上在学し、専門科目 30 単位以上(ただし、研究指導は含まない)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、本学の行う修士論文の審査に合格することとする。それによって、修士(教育学)の学位が授与される。

③博士後期課程においては、「保育・教育研究領域」と「子どもの健康研究領域」の二つの研究領域に分け、それぞれの研究領域に関する高度で最新の専門的知識・技能を修得するとともに、創造性豊かな研究能力と確かな実践的、臨床的視野と指導力を身につけることができるように、多様かつ豊富な教育課程を編成している。すなわち、両研究領域において「特殊研究科目」と「課題演習科目」を設け、特殊研究科目は、学生が自らの研究領域について幅広い専門的知識と視野をもつとともに、自らの研究課題を発見し、研究計画を立てる力や方法論を身につけるために必要な科目として、

「教育学特講」「幼児教育学特講」「保育学特講」「小児医学特講」「子ども心身医療特講」「発達心理学特講」を１年次に選択配置し、４単位（２科目）以上の履修を課している。課題演習科目は、学生が自ら設定した研究課題について基本的かつ専門的な知識・技能、研究方法等を学修するため、また学士同士が切磋琢磨して独創性・創造性を磨き、各自の研究水準を高めるため、各研究領域において「教育学演習」「教育方法学演習」「幼児教育学演習」「保育実践研究演習」「小児医学演習」「子ども心身医療演習」「発達心理学演習㈱（発達支援）」「発達心理学演習㈱（発達臨床）」「臨床心理学演習」を、３年間を通じて配置し、少なくとも両研究領域から１科目の選択必修とする。
④博士後期課程における研究指導は、主たる指導教員が一人で、または副指導教員と合同で、学生の個性と問題意識を生かしながら、個人面接を中心に、研究の進行に関する助言を与え、博士学位請求論文の執筆・提出まできめ細かく行う。なお、「博士学位請求論文執筆計画書」を提出して、執筆を認められた 3 年次以降の学生に対しては、９月に大学院担当教員全員の出席のもと、「中間発表会」を開催し、提出の可否を決定する。
⑤博士後期課程の修了要件は、本課程に３年以上在学し、特殊研究科目および課題演習科目から 10 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士学位請求論文を提出し、公開による口頭試問を実施のうえ、論文審査に合格することである。それによって、博士（教育学）の学位が授与される。
⑥シラバスに授業の概要をはじめ、学生の到達目標、成績評価の方法、教科書や参考書・参考資料等を明確かつ詳細に明示している。

**３．入学者の受入れに関する方針［アドミッション・ポリシー］**

本大学院は、大阪総合保育大学の三つの建学の精神「自主自律」「清和気品」「敬天愛人」を継承するとともに、保育・教育に関する実践的、理論的研究を行い、高度な専門的知識と研究能力を有するリーダーとして社会に必要とされる人材ならびに子どもの健康に関する研究を心理・医療の両面から行い、高度な専門的知識と研究能力を備え、子育て支援が適切にできるリーダーを養成します。そのため、多様な入学選抜方式を通じて、以下のような学生を受け入れます。
①本大学院で学び、学問的、人間的に成長したいという強い目的意識をもつ学生。
②保育・教育に関する基礎的、専門的な知識・技能を身につけ、保育・教育現場の諸問題に真摯に取り組み、問題解決に貢献したいという意欲のある学生。
③子どもを愛し、子どもの心身の発達について連続的、総合的に理解し、長期的な視野に立って子どもの健全な育ちを支援したいという意欲のある学生。
④すでに長年にわたる保育・教育現場における経験を有し、自らの経験を理論的に再検討し、リーダーとしての高い専門性と豊かな人間性を身につけたいと思う学生。